



## 私と化学をつなぐ思い出

兼清先生よりバトンを受け取りました甲南大学の岩月と申します。本稿が掲載されるのは3月とのこと、まさに卒業シーズンです。晴れてご卒業の学生・大学院生の皆様、おめでとうございます。学生・研究生生活を振り返る季節ではないかと思えます。そんな節目の季節ですので「振り返る」→「思い出」に関して（少々無理矢理ですが）、私と化学をつなぐ思い出の3品を、少々不器用な人生を交えて書かせて頂こうと思えます。

一つ目は、ボロボロになった量子化学の本です。何も分からない状態から自力で読破した初めての教科書（専門書）であり、化学の道に進むきっかけになった本かもしれません。実は学部生の頃、化学の講義についていけなくなり、当然のように留年しました。当時は“わからない”ことが非常に苦しく、「大学をやめようか…」と思うほど化学が身につかない時期でした。ただ、化学系を選んだ自分に後悔したくない一心で「専門書を自力で読める（理解できる）ようになって、それでも苦しいなら諦めよう」と決心し、手に取ったのがこの本でした。ハミルトニアンや波動関数の記号すら知らずに読破などと…1ページ読むと目が回って気持ちが悪くなるような状態で、毎日ひたすら読み、本に出てくる式を広告の裏に書き続け数カ月…目の回る本読みも5周回目くらいでしょうか、ふっと記号が理解できる瞬間が来ました。小さなことですが「目から鱗が落ちた」のでしょうか。それからどんどん読めるようになり、その楽しさが化学の面白さになっていきました（都合のよい性格です…）。この本は、苦しくても諦めないで一步を踏み出す勇気を与えてくれたような気がします。

二つ目は、やはり博士学位論文です。実は分析より合成が好きなのですが（すみません…）、当時の名古屋大学理学部分析化学研究室では、金属錯体を新規に合成し、その反応機構を解明するというテーマがありました。「分析研だけど合成して速度論…なんか分析っぽくない」という第一印象が妙に素敵(?)で分析研に入りました。大学院生時代は結果がなかなか出ず、研究の苦しみを味わうことになりました。「学位を取れない…」という焦りと、当時の若い性格も災いして先生方と幾度となく衝突しました。でも、こんな偏屈な私を我慢強くご指導下さった先生方のおかげで、大学入学から11年3カ月、学位を取らせて頂きました。分析研で得たことは語り尽くせませんが、化学の道に進む上での厳しさと楽しさを教えて頂くとともに、諦めかけた化学の道に私を繋ぎとめてくれた先生方にとっても感謝しています。そして、学位論文を見て大喜びしてくれた両親の姿に、長い学生生活で迷惑をかけて本当に申し訳なく、同時にとても感謝の気持ちで一杯になったのをよく覚えています。

そして三つ目は、現職の採用内定通知です。学位取得後は、恩師のご配慮で早稲田大学理工学部無機反応化学研究室にポスドクとしてお世話になりました。ポスドクはバリバリ研究して成果を出して…ですが、学生生活を通して教育・指導の大切さ（受ける側として）身をもって実感していましたので、研究指導を最優先し、研究室全体のレベルアップを目指しました。時間はかかりましたが、ポスドクの最終年には、学生さんと相乗的に成果



春、旅立ちの季節です！（甲南大学理工学部棟と桜）

を出せるようになりました。彼らの成長ぶりは教育研究職への志を一層強くさせました。しかし、次の就職先は…ポスドク就職難の渦中にあり、教育研究職もポスドクを探すのも難しい現実を突き付けられました。その後、財団派遣の研究者として原子力科学研究所の分離技術開発の委託業務に携わりました（実はここでの経験が今とても役に立っています）。一方で、研究を続けるために、週末は早稲田大学に通いました。とはいえ、このような休みのない生活と就職への重圧は、私を体力的にも精神的にも消耗させました。思い悩んだ末、「化学の道をとことん目指して、ダメなら化学は一切やらない」と一大決心し、1年後に仕事を辞めてハローワークに通いつつ、下宿でデータ解析と論文執筆、早稲田大学で実験、そして人事に応募する日々を始めました（恩師には「何バカなことやるとるんじゃ！」と怒られました…）。化学の道に残る最後の賭け、極限まで自分を追い詰めました。あと少しで生活費も尽きる頃——通算41件目の応募で、この内定通知が届きました。そのときの手の震えは一生忘れないでしょう。今、甲南大学で先生方や学生さんと化学を続けられるのは私にとって奇跡であり、その幸せを素直に感じながら、これからも化学の教育研究に真正面から取り組んでいきたいと思えます。

以上、思い出の3品を書かせて頂きましたが…本当は、このような身勝手な人生を送れるのも、いつも叱咤激励や心温まるご支援を下さる先生方、同僚、学生さん、そして家族…たくさんの方々のおかげなのです。最も大切な思い出（人生の宝!）は、このような“ひととのつながり”であると思っています。深く深く感謝（そして懺悔?）申し上げます。——春、新たな旅立ちの季節です。皆様にはこれからどのような思い出の逸品、人生の宝ができるのでしょうか？

さて、次号は、関西大学の川崎英也先生です。実は数日前に初めてお会いしたばかりですが、バトンを…とお願いしたところご快諾下さいました。川崎先生のお心の広さに感動しておりますとともに深く感謝申し上げます。

〔甲南大学理工学部 岩月聡史〕